

小平図書館友の会 会報 39号



発行日 2017年11月15日
発行者 小平図書館友の会会長 剣持 香世

ネット公開版

ブログ <http://yamaoji.cocolog-nifty.com/kltomonokai/>
連絡先 ブログ掲載のメールアドレスへ

もくじ

第20回 総会報告 1	学習会報告 5
図書館用語解説 (第2回) 2	声に出して本を読む会	
小平市の図書館、いまさら聞けないQ&A 3	読書サークル・小平	
文学散歩の感想 4	図書館について学ぶ会	
		YAを楽しむ会	
図書館協議会報告 6		
「図書館について学ぶ会」報告 7		



「金木犀 香りて 祝20年」 木谷英子(会員)

<総会報告> 会長 剣持香世

10月15日(日) 第20回小平図書館友の会総会が中央公民館で行われました。

出席者と委任状を合わせて総会は成立し、前年度の活動報告と決算、今年度の活動計画と予算が承認されました。また図書館への寄贈品も承認され順次購入されることとなります。

今回20回目の節目の総会を迎えられることはとても感慨深いものです。会員約130名、ひとりひとりの小さな力が集まって築き上げた20年です。また会員だけではなく、小平市の図書館の職員の方々のお力添えや、古本市に本を寄付して下さる方々、購入して下さる方々などと多くの皆様のおかげで今日があると思います。

私たちは本と図書館が大好きな人々の集まりです。他市に比べ図書館が身近にあるという恵まれた環境にあって、なお一層図書館に注目し新しい役割も模索しながら次の年度に向けてスタートしたいと思います。

*会員は随時募集しています。本が好き、図書館大好きの人、ご入会をお待ちしています。詳しくは上記事務局へ。

【写真】
2017.10.15
第20回総会后
懇親会



図書館用語解説 第2回

前号に続き、私たちがよく耳にする図書館用語を小平市中央図書館資料系の協力で解説します。

【司書】図書館職員のうち、図書館法に定める資格を所持し、図書館の管理・運営、資料の収集・整理・保管、レファレンスサービスなどの専門的業務に従事するものをいう。また、同法に定める資格そのものことも指す。

【レファレンスサービス】利用者の求めに応じて、図書館職員が、図書館の資料と機能を活用して、資料検索の援助・資料提供・回答などを行うサービスで、利用者と資料や情報を結びつける機能がある。

近いサービスとして「レフェラルサービス（利用者が求める資料や情報を提供できる専門機関や専門家を紹介したり、専門機関や専門家に照会して情報を提供するサービス）」がある。

【リクエストサービス】利用者の必要とする資料が、貸出中や未所蔵などの場合に、予約を受けて後日その資料を提供するサービス。同じ資料に複数の予約が入るなどの理由で、提供に時間がかかる場合もある。

【不明資料】存在するはずの書架になく、行方不明になってしまった資料のこと。他の書架に紛れている場合もあれば、館外で拾得される場合もある。

【ブックトラック】主に資料の運搬に利用する台車で、キャスターのついた2～3段の棚の形態をしており、片面のものと両面のものがある。資料の運搬以外にも、返却されたばかりの資料や新着資料の一時的な置き場所など、館内で多様に使われている。

ブックトラックなどを活用していても、図書館職員は腰を痛めることが多い。

【ブックポスト】図書館の開館前や閉館後、休館日でも資料の返却ができるように、館外に設置された返却ボックス。

小平市立図書館では、ポストの中で図書と重なることで割れるなどの危険性があり、また返却時に資料状態のチェックを行うことから、CD やカセットテープはカウンターでの返却のみ受けつけることと

している。

【ブックトーク】複数の図書を、特定のテーマにそって、エピソードや主な登場人物、著者の紹介、あらすじなどの解説を加えながら紹介すること。読書意欲を起こさせることを目的として、小学校などでよく行われる。

【ブックスタート】自治体が行う0歳児健診などで、絵本を通じて親子の触れ合いを深め、絵本に親しんでもらえるよう赤ちゃんに絵本を手渡す活動。小平市でも、平成30年度から実施する。

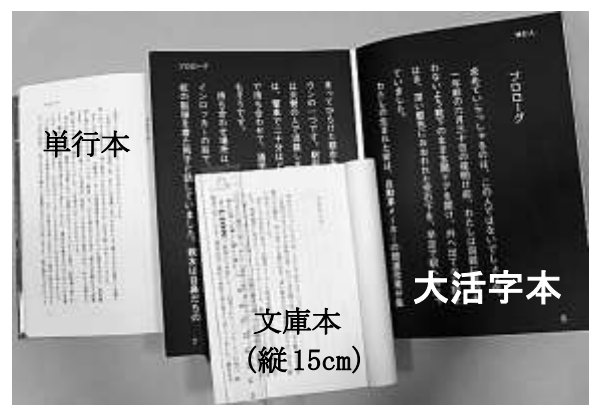
【デージー (DAISY) 図書】「DAISY」とは、Digital Accessible Information SYstem (アクセスしやすい情報システム) の頭文字を取った名称で、視覚に障がいのある人でも図書に親しめるよう、図書を音声化してCDなどのメディアに録音した資料を指す。

通常の朗読CDと違い、図書と同様に目次から読みたい章や節、任意のページに飛ぶことができる。また、読み上げ速度の調節などもできる。

【大活字本】低視力者や高齢者など、細かい活字が読みにくい人のために作られた、大きな活字で書かれた図書。活字が大きいために底本*よりページ数が増え、何冊かに分冊されることもある。

*底本：原本のこと

【図】大活字本の例



通常の図書……明朝体 9pt 程度

**大活字本……ゴシック体
22pt (誰でも文庫)**

【この会報の本文は、ゴシック体 10.5pt(ポイント)】

小平市の図書館、いまさら聞けないQ & A

図書館を利用してふと疑問に思ったことはありませんか？
でもわざわざカウンターに聞いて聞くほどのことでもないし……
そんなあなたに代わって友の会が図書館に聞いてみました。

* 一口に図書館といっても色々な図書館があり、対応は様々です。
ここでは小平市立図書館の例でお答えします。

まずは考えてみてください。 (答えはこのページの下にあります)



【Q1】飲み物は持って入っていいの？

- a) 図書館に飲み物を持ち込んではいけない
- b) ペットボトルなど口がしっかり閉まるものなら構わない

【Q2】スマホで本を撮影していいの？

- a) 絶対にいけない
- b) 許可を取ればよい
- c) 全く構わない

【Q3】参考室に入る前に荷物をロッカーに預けるのはなぜ？

- a) 私物と間違えて資料を持ち帰ってしまうから
- b) ガザゴソとうるさい音をたてるから
- c) 貴重資料や持ち出し禁止資料の保護のため

【Q4】自分の本を持って行って読んでもいいの？

- a) 図書館の本と紛らわしいので持ち込んではいけない
- b) 構わない

【Q5】本があった元の場所がわからなくなったときは？

- a) 適当に棚に突っ込んでおく
- b) 目立つところに置いておく
- c) カウンターに持っていく

【Q6】トイレに読みかけの本を持って行っていいの？

- a) 一旦棚に戻す
- b) 持って行ってもよい

【Q7】席に荷物を置いて確保しておいてもいいの？

- a) 席の独り占めは絶対にいけない
- b) 短時間ならよい

【Q8】小平市中央図書館になぜライオンがいるの？

- a) 中央図書館ができたときに市内の企業から寄贈された
- b) 職員がアフリカに行ったとき捕まえてきた

【Q9】借りた本を汚してしまった…

- a) 知らん顔をする
- b) 借りたときにすでに汚れていたと言う
- c) 正直に申し出る

【Q10】返ってきた本は消毒するの？

- a) 消毒は手間がかかるのでやっていない
- b) 丁寧にアルコールで拭いている

《答え》

【Q1】 b 各図書館には入り口外側付近に冷水器が設置されています。

【Q2】 b 撮影できるのは、複写が許可された図書館資料だけです。

撮影できる範囲も決まっていますので、職員の立ち合いのもとで行っていただきます。

【Q3】 c

【Q4】 b 図書館は、原則、図書館内の本を利用するところです。従って、混雑時には読書室などは、図書館の本を利用する方が優先になります。

【Q5】 c 【Q6】 a 【Q7】 a

【Q8】 a 1階にはメスライオン、2階にはオスライオンがいます。もちろん剥製です。

【Q9】 c 【Q10】 b

文学散歩 国際基督教大学(ICU)

2017年5月31日(水)

参加者 14名

5月31日、JR武蔵境駅に10時集合。

散歩日和の中、14名の参加者がそろいバスに乗ってICU(国際基督教大学)へ。大学の正門からさらにバスは奥深く構内へ進み、両側には新緑の豊かな景色が広がり、その広さにまず驚きました。到着後、初代学長であった湯浅八郎博士を記念して造られた大学博物館を見学しました。主な収蔵品は博士が収集した日本の陶磁器や染織品、木工品や民芸品など、また構内で発掘された旧石器時代から縄文時代にかけての石器、土器、住居址の復元模型など考古資料です。絵柄も様々なそば猪口が並ぶ様は見応えがあり、手のひらサイズの一輪挿しか墨の水差しかと思わせる壺が髪型を整える油をいれる油壺というものであったことも江戸の生活文化を知る興味深いものでした。2階では大航海時代に描かれた植物画の図譜が特別展示されており、その緻密で繊細な植物画に魅せられました。

博物館を堪能した後は学食でランチ。開放感あふれる学食では、学生さんに混じって学生気分を味わいました。私は今回が初めての参加でしたが、初めてお会いする友の会の方々ともいろいろなお話ができ楽しかったです。

食後は泰山荘へ。泰山荘は1936年頃実業家であった山田敬亮の別荘として建てられ、国の登録有形文化財となっています。その趣ある建物や庭は洋風な大学の中で和の風情をもち、静かな空間を作り出していました。

その後、大学礼拝堂へ。丁度パイプオルガンを練習しており、厳かな気分には・・帰りがけには鐘楼の鐘が鳴り響き、まるで異国にいるような雰囲気でした。

折しも秋篠宮眞子様のお婚約報道後であり、構内では外国人と日本人の学生さんが仲良く談笑している風景などを目にし、まさにグローバルな環境を実感しました。文学散歩のおかげで、普段入ることのないICUを訪れ、その歴史や雰囲気に触れることができ、とても充実したひと時を過ごせました。

(岩上尚子)



*

5月31日(水)木々の緑がひととき深くさわやかな日、国際基督教大学キャンパスの文学散歩に参加しました。JR武蔵境駅午前10時集合、バスで10分ほど走り構内に入る。

さつきなど綺麗に刈り込みされた中をさらに走る。キャンパスの広大さに目を瞠る。

まず、ICU初代学長であった故湯浅八郎博士の貢献を記念して、1982年6月開館の大学博物館見学。ここは無料で公開されており、主な収蔵品は丹波布、筆筒など各地の民芸品、考古遺物、皿など陶器美術品、藍染めのほか歴史資料など多種多様で驚かされた。

ゆっくりしたい方にはインスタント茶の接待展示会室での解説、パネル紹介、美術雑誌なども揃えてあり満たされた時を過ごせると思いました。特別展示室では収蔵資料を基にした企画展を年3回開催とのこと、付随した公開講座もあり幅広い活動が素晴らしい。4月4日(火)~6月17日(土)はICU図書館貯蔵の「バンクス植物図譜」よりニュージーランド部分91点が展示されていた。

昼食は新たになった明るい食堂で美味しくいただき会話が弾む。午後から泰山荘「高風居はじめ6つの建物は国登録有形文化財」を見学。最後にICU Churchの礼拝堂に入り聖書のお話、祈禱、大学院生からのメッセージ「永遠の命を受け継ぐ」があり、オルガン演奏が聴けました。信仰による人生を考える様子を見せて頂きました。いろいろ充実した見学有難うございました。

(石戸紀久江)



【写真】2017.5.31

国際基督教大学 博物館湯浅八郎記念館前で

学習会報告

声に出して本を読む会

—「第13回 ことばの玉手箱」発表を終えて—
小平図書館友の会会員有志による「本を読む会」発足は、当時の朗読ブームや会員の欲求の中、会員でもあった内山恵司氏（俳優・東宝演劇）の様々なご指導・ご支援を得て、定期的に演習の回を重ねるうち、できれば成果発表の機会をと、2006年1月19日、第1回発表会を開催、さまざまな出会いと、緊張、反省を織りまぜながら、「ルネこだいら・市民自主公演支援事業」参加や、「幕を開けてのお楽しみ」と、発表会「ことばの玉手箱」を継続開催。「声に出して本を読む」という当り前のことが、読解力や発表技術の難しさに躊躇しつつも、さらには、演出家、ピアノ、チェロ演奏家のご支援を得て、会員それぞれ、高揚感を味わい、活動に弾みをつけつつ今日に至っています。

今年は、10月7日、小金井・ブルーメンハウスで、第13回発表会をささやかに開催、石垣りん「詩の中の風景」より9作品を読み、これらの経験も大切に、つねに「初心に立ち返る」地道な活動が継続されること、今後とも、感動を共有できる「つどい」がもてるよう、新しい気持ちで取り組みます。

なお、残念ながら、内山恵司さんが、10月24日逝去されました。

ご遺志はしっかり継承したいと、一同決意しています。 合掌
(雑崎亮平)



【写真】

2017.10.7 小金井 ブルーメンハウス
声に出して本を読む会 第13回発表会

読書サークル・小平

隔月に1度、第3日曜日の午後に例会を開催しています。毎回7~10名ぐらいの参加です。最近、テキストとしたい新書が増え隔月開催では追いつかない状況です。また、ひとつのテーマに関して類書の刊行が相次ぎ、サブ・テキストも採用し、多角的読み方ができるようにしています。

*

— 5月から9月までのテキスト —

■第40回 2017年5月14日

エマニュエル・トッド『グローバリズム以後 アメリカ帝国の失墜と日本の運命』（朝日新書 2016.10） 長期的スパンでモノを考える訓練です。

■第41回 2017年7月16日

菅野完『日本会議の研究』（扶桑社 2016.6）

[サブ・テキスト] 青木理『日本会議の正体』（平凡社新書 2016.7） 類書は10冊ほど出ています。日本会議は今後キーワードとなります。読書会が無ければ読まなかった本かも知れませんが、読めて良かったと思っています。

■第42回 2017年9月24日

河合雅司『未来の年表—人口減少日本でこれから起きること』（講談社現代新書 2017.6）

[サブ・テキスト] 吉川洋『人口と日本経済—寿命、イノベーション、経済成長』（中公新書 2016.8）

人口減少はじんわりと日本社会に効いてきます。この問題を考えるとき、繰り返して読んで役に立つ2冊でした。

(大森輝久)

図書館について学ぶ会

図書館について学ぶ会はハンディキャップサービス学習会との合同開催で会合を進めています。

会報今号 P.7-P.8 に掲載されていますように、2016年7月から「司書についての勉強」を1~2か月に1回開催してきました。そして2017年11月2日の勉強会で取りまとめが報告され、一応終了を迎えました。報告は司書職について議論するとき考えなければいけない論点について整理され、一覧に近い形でまとめられています。

次回以降の活動については、「郷土資料とともに市民活動の小冊子やチラシ等の収集保存について」など意見が出ています。会員の皆様から何かご希望が

あれば図書館友の会事務局あてお知らせ願えればと思っております。

ハンディキャップサービスについては、ハンディキャップのため図書館に来館できずにいる市民に、ボランティアの力を借りて自宅(居所)まで読みたいと希望された本を届け、また図書館への返却も行うという宅配貸出しサービスについて注視しています。画期的なサービスですが、利用者が少なくボランティアも出番がほとんどなく士気も低下してきているという状況の改善策の検討に終始しました。利用者になるための要件が厳しすぎるというのが大方の意見です。(塚本健男)

YA を楽しむ会

YA を楽しむ会は、毎月第3金曜日、午前10時から12時まで、元気村おがわ東の会議室で行っています。

毎回10人前後の参加者です。すっかり顔なじみになりましたので、時々本のことを離れて四方山話に花が咲くことも多いのです。子どもの頃の事、父や母の事、映画の事などを話していると、いつの間にか本のテーマにつながっていきたりしますから、無駄話というわけでもないですね。

日本の本と外国の本を一冊ずつ読みましょと始めたのですが、気がついてみると8~9割が外国の本になっています。

テキストは毎回皆で出し合って決めています。いろいろな国の子どもたちのことを知りたいし、私たちの身近にいる子どもたちのことも知りたいので、もっともっとおもしろい本にたくさん出会いたいと思います。(重村ヒロミ)

*

— 5月から10月までのテキスト —

- 5月 『いろいろな性、いろいろな生き方』
(1・2・3) 渡辺大輔著 ポプラ社
- 6月 『サリーの帰る家』『サリーのえらぶ道』
『サリーの愛する人』 エリザベス・オハラ著
さ・え・ら書房
- 7月 『太陽と月の大地』
コンチャ・ロベス＝ナルバエス著 福音館書店
『影—小さな5つの物語』 カニグズバーグ著
岩波書店
- 8月 映画会「時をかける少女」

- 9月 『100時間の夜』 アンナ・ウォルツ著
フレーベル館
『海辺の王国』 ロバート・ウェストール著
徳間書店
- 10月 『銀の馬車』 C・アドラー著 金の星社
『ワトソン一家に天使がやってくる時』
クリストファー・ポール・カーティス著
くもん出版

図書館協議会報告

(2017年度上半期)

奇数月に1回の開催で、既に年間6回開催予定の半分を消化した。

この4月からは「中央図書館が充実すべき機能、地区館分室の機能の見直し」テーマを検討する「図書館のあり方検討会」が中央図書館内に発足している。図書館協議会もこの動きを受けて、「図書館のあり方」専任担当者に図書館協議会での議論に必要な資料を依頼して、議論を2017年5月の第1回協議会から続けている。

また、同時並行で、「歩いて15分で図書館に」が早晚立ちいかなくなるので、廃止、統合、他の施設との合築も視野に入れて議論していく必要がある。

具体的に、例えば第3回でどんな資料を受けたかを列記してみる。

- ①「小平市立図書館の歩み」②「指定管理から運営体制を変更した図書館」③「新聞記事に見る武雄市図書館」④「武蔵野市の図書館」⑤「図書館を含む複合施設」

「小平市立図書館のあゆみ」を見てみると小平市図書館開館時には職員全体で15名、そのうち司書が10名いたことがわかる。

また、小平市第3次長期総合計画・前期基本計画における図書館サービスの位置づけ・今後の課題として――

- ① 図書資料の充実、図書館システムの更なる向上、学校図書館との連携を図り、総合的ネットワークの形成を掲げ、
- ② さらに、ボランティアの活用や新しい図書館の仕組みを検討する中で、専門性を確保し、より活用しやすく便利な、新しい時代にふさわしい図書館を構築していく必要があると述べている。

(塚本健男)

「図書館について学ぶ会」報告

専門職としての司書の分かり難さ、それについてどう考えればいいのか
資料作成・記録 大森輝久

2012年度末をもって、小平市立図書館では図書館職員として採用された職員がゼロになるということで、小平図書館友の会では「司書の採用」を希望してきました。

しかし、どの自治体でも同様ですが「司書が必要」だけの希望では成果が出ていません。

どのように説明したらいいのか、それを考えるために、「図書館について学ぶ会」では司書について学ぶために約月1回例会を持ちました。

*

第1回 2016年7月26日(火)

議題:「司書の必要性について考える手順」

いきなり「司書は必要」といっても市役所にも市民にも伝わらないと思えます。委託化(外注)は進んでいますし、ボランティアで運営できるのではないかとの声もあります。「必要」「不必要」の隔たりが実に大きい。

まず、経緯の理解です。1967年(いまから50年前)に東京都公立図書館長協議会が「司書職制度確立ための要請書」を提出しました。3年前にオリンピックを終え社会の高度化・複雑化に対して専門職員を採用すると考えたのには理路があります。しかし、それに対して、東京の図書館界の一部と東京都の労働組合から反対運動が起りました。反対意見がとりまとめられ司書職制度は「お蔵入り」となった。

都の方から「司書職制をつくりたい」という要望が出ていたのですから、これが成功していたら、今さら「司書が必要かどうか」「司書の専門性とは何か」という議論は存在しなかったでしょう。そして、全国は東京に倣って司書職制度(専門職の司書として採用されるということ)を採用し広まっていたでしょう。しかし、そうはならなかった。

それから50年たちました。東京都の公立図書館職員の約70%は委託・外注で「非常勤職員」です。

<配布資料>(作成:大森輝久、以下同)

- 1-1:「司書の必要性について考える手順」
- 1-2:1967年の経緯説明「葉袋秀樹『図書館運動は何を残したか』(勁草書房 2001)
- 1-3:「東京都公立図書館長会議の要請書」
- 1-4:「図書館法」第3条から「専門性」の具体的内容を①「選書」②「レファレンス」③「資料に関する催し」と抽出。

第2回 8月30日(火)

議題:「司書の分かり難さ」

2か月講習司書の問題。司書を4つに分ける。

- (1)「2か月講習司書」ないし「事務司書」
- (2)通信教育、インターネット教育終了
- (3)「司書過程終了司書」
- (4)「認定司書」

専門職として認めにくい「2か月講習司書」の実態。

<配布資料>

2-1:「司書はなぜ専門職として認められ難いのか

—「認めにくい司書」だから—

2-2:「仲町図書館と武蔵野プレイス図書館の設立過程における「司書」の参加を比較して考える」(専門家の果たす役割)

2-3:「塩尻図書館の見学(案)」

2-4:東京の図書館での選書調査例(買い逃しが多い)ことの例示(「司書と出版人の会」での大森発表資料)

*

第3回目 9月13日(火)

議題:「司書批判の類型調査」

「自治体職員になっていない」「市民サービスより図書館の地位向上や認知度の向上を主と考えている」などの批判。その結論として「異動しろ!」。批判論文とその考え方批判を説明。そして、専門性(大森第一案)

①「選書」②「レファレンス」③「資料紹介(催し)」

<配布資料>

3-1:「司書批判の類型について」

3-2:批判論文 屋間守仁「今、公立図書館に問われるもの」「現代の図書館」29巻4号(1991.12)

3-3:ネット上の論文「公共図書館における図書館司書の専門性」(38枚に亘って専門性否定)

3-4:国立国会図書館職員の渡邊斉志氏の2論文

3-5:「図書館員の専門性とは何か」

*

第4回 10月20日(木)

塩尻市立図書館の見学

「会報」37号(2016.11.15) 剣持香世「塩尻市立図書館見学記」、「会報」38号(2017.5.15) 大森輝久「本棚をつくる—塩尻市立図書館訪問記—本の入口としての選書、本が入ってから選書」で報告。

第5回 12月6日(火)

議題:東京都立図書館からの「司書について」の回答

東京都立図書館サービス部情報サービス課からレファレンス回答が届く。旧来からの定義「利用者を知り、図書館資料を知り、利用者に図書館資料を結びつける」などはすでに批判されているので不要と指示していたが、それが反復されており、自分たちで考えるしかないと説明。

全国図書館大会(2016)第11分科会「職員問題」「これからの専門職制度を考える」の紹介。大森の4つの質問。民営化が進んでいても、この「職員部会」は「非常勤職員問題」を例年検討し、「司書の専門性」への言及、問題の設定が少ない。非常勤問題は「労働問題」である。「司書問題」と「労働問題」の混同。

<配布資料>

- 5-1: 東京都立図書館からのレファレンス(回答)
- 5-2: 全国図書館大会「職員問題」分科会資料

*

第6回 2017年1月31日(火)

議題:「専任司書がいる図書館といない図書館の差(違い)」「貸出冊数の例などで説明」

日本文芸家協会主催のシンポジウム「公共図書館はほんとうに本の敵?」に提出した大森レポート。「未整備な公共図書館は本の敵である」。

<配布文書>

- 6-1: 「専門専任司書(異動司書ではない)の『いる図書館』と『いない図書館』での違い(例)」
- 6-2: 「公共図書館はほんとうに本の敵?」シンポジウムでの提出レポート

*

第7回 3月7日(火)

議題:「司書の専門性蓄積を保证するトレーニングとは何か」

それでは、司書の専門性はどのように蓄積されるかを「日々のトレーニング」から説明。日々のトレーニングを必要とするのが「専門職」で、必要としないのが「事務職」。

<配布資料>

- 7-1: 「司書の専門性を証明できるものは何か? 司書の日々のトレーニング」一覧
- 7-2: 「貸出冊数優先主義はつくられた虚報である」
- 7-3: 葉袋秀樹『図書館運動は何を残したか』(勁草書房 2001)についての西河内靖泰の書評。「図書館

雑誌」2001年10月号掲載。書かされた書評とのこと。従って1967年問題はあった。

7-4: 著者を知る(例)

*

第8回 4月25日

議題:「暫定的まとめ」

<配布資料>

8-1: 「専門職としての司書とは何か一司書の専門性の分かり難さとその克服」

[内訳] 1・2枚目: 司書業務の中には非専門的業務が多い。7割? したがって「全員が司書」は誤り。

専門性 ①選書 ②レファレンス(選書ができてレファレンスは可能となる) ③本の紹介・本の展示(①選書と②レファレンスができて可能となる)

3枚目: 日々のトレーニング一覧

4枚目: 2か月講習司書には難しい業務

*

第9回 7月6日(木)

議題:「レファレンスの事例で専門性の調査」

選書については、『公立図書館貸出実態調査 2003報告書』(日本図書館協会他)が受賞本の8割は買い逃しと報告。大森の40年調査も8割買い逃しと例示。

今回はレファレンスの回答(正解)調査を行った。

<配布資料>

- 9-1: 「司書いるいない論争の二項対立を克服する」
- 9-2: 「司書への疑問」、「司書講習への疑問」(塩見昇『図書館員への招待』(教育史料出版会 2012)から引用)
- 9-3: 「レファレンス実態調査」(2017.5実施)
- 9-4: 「レファレンスするためには「レファレンス頭・身体」となっておく必要がある。「第二の知識」

*

第10回 9月14日

議題:「公共図書館の業務分析」

専門性についての「業務分析」、「中堅ステップ研修」の紹介。業務分析には「重点度」勘案が大切。

<配布資料>

- 10-1: 「公共図書館の業務分析」(2000.3.31)(出典: 「専門性の確立と強化を目指す研修事業検討ワーキンググループ」(1998年設立)の報告書)
- 10-2: 業務分析書の参考に『図書館制度・経営論』(手嶋孝典編著)(学文社 2013.1)
- 10-3: 「図書館専門職の業務『重点度』」(試案)
- 10-4: 「中堅ステップ研修」日程表から専門性を考える